

第2回次世代国際保健リーダーの輩出を考えるワークショップ

2022年10月14日(金)、東京大学未来ビジョン研究センター、グローバルビジネス学会と共催し、日本国際交流センターにご後援頂き、オンライン・ワークショップ「第2回次世代国際保健リーダーの輩出を考えるワークショップ」を実施しました。

今年は、好評だった昨年の第1回ワークショップのフォローアップとして国際保健分野の識者をお迎えし、グローバルヘルス分野におけるキャリア・ディベロップメントについてお話し頂くとともに、ご希望のパネリストに直接質問をする機会を設けました。

当日は、仲浩史東京大学未来ビジョン研究センター教授が開会のご挨拶をされた後、宮城島一明イオン(株)食の安全研究所所長(元WHO食品安全・人畜共通感染症部長)、柏倉美保子ビル&メリンダ・ゲイツ財団日本駐在代表、勝間靖早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授より、それぞれのご経験に基づき、グローバルヘルスに関心を持ち国際機関を目指すに至った経緯や転機、リーダーシップやチーム・マネジメントなどでの失敗とそれを乗り越えた方法、国際機関を目指す方へのエール等をお話頂きました。

その後、新しい試みとして出入り自由な各講師専用のブレイクアウトルームを設け、30分間の質疑応答の時間を設けました。

そして最後に、各講師よりブレイクアウトルームにおける質疑応答の内容を簡単にまとめて頂くとともに、中谷比呂樹グローバルヘル



写真：活発な意見交換が行われたワークショップ

ス人材戦略センター長より閉会のご挨拶をしました。

当日は学生から60代の方まで、また、企業・公官庁・大学・医療機関・国際機関等の幅広い層の方々97人がご参加され、それぞれのお立場から活発に講師にご質問をされていました。講師の先生方のご経験に触発され、グローバルヘルス分野や国際機関勤務を志す方が増えることを願っています。

アドバイザリーグループ会議報告

表記会議が2022年9月15日(木)にTeamsによる遠隔会議方式で開催されました。この会議はセンターの方向性に関して外部有識者からご意見を頂く場で、年度当初と年度半ばの2回開催されています。今回は(1)主要保健関係国連機関幹部募集条件調査、(2)2021年度邦人職員数調査をご報告した上で、2022年度活動実績・計画案をご検討いただきました。

第一の幹部募集条件調査では、2019年11月～2022年5月の間に公募された88のD1以上の幹部職員ポストを対象に、多くの応募者のネックになっている公的セクターの経験年数、国際的な組織管理経験がどの程度具体的に記載されているか等を調査しました。国際機関の幹部職員は、公的セクターでの経験に重きが置かれると思いきや実は必須としているポジションはわずか12ポスト(13.6%)しかない。73.8%(65/88)のポジションでは公的セクター勤務年数の記載もない。従って、応募の観点からしてみれば公的セクターでの経験が短いからといって自動的に排除されるわけではないことが分かりました。一方で、23ポスト(26.1%)のポジションでは5年以上、場合によっては15年にもわたる経験が求められることが分かったので、やはり国際経験があるに越した事はありません。民間セクターについて言えば、医薬アクセスやロジスティック等を中心に新しい分野では民間セクターの経験を評価する傾

向が見られました。またいくつかのポジションでは官民どちらか一方だけの経験でもいいようになっており、従前よりもより応募しやすい環境が生まれつつあると言えそうです。ただし、公募条件は最低の条件を示したものであるため、今後は、実際に採用された方の経歴と比較して、公募条件にどれだけ上乗せしないと採用に結び付かないのかを調査することとしています。

第二の邦人職員数調査では、国際機関(WHO、UNAIDS、UNICEF、UNFPA、World Bank、Global Fund、Gavi、WHOがホストする6つのPartnership)に勤めるP5以上の職員及び専門家委員会邦人数は83名であることが分かりました。従前は世界銀行とWHO Advisory Groupの数字が取得できなかったのですが、21年度からは関係方面のご協力で取得できるようになりました。しかし、これらを除いた従来からの仕方では計算すると47名(2020年度は51名)で漸減したように見られます。ただし、これはWHOが専門家委員会を整理しつつあり4減となったことが大きく、WHO、UNAIDS、UNICEF、UNFPAといった保健関係国連機関の幹部職員数は29名を維持しています。最後に活動実績・計画案については、年度前半の事業成果を報告し、後半の事業計画へ多くのご助言を頂きました。秋から初冬については、数々のワークショップを開催しますので、多くの方にご参加願いたいと考えています。

■ 人材登録のお願い

10月27日現在、757名の方が人材登録・検索システムに登録されており、ご希望に応じた空席情報がマッチング・メールにて届くようになっていきます。人材登録・検索システムの使い方に関する動画も登録ページに掲

載しています。未登録の方は登録されますようお願いいたします。

<https://hrc-gh-system.ncgm.go.jp/>



グローバルヘルス・ロールモデル・シリーズの掲載

国際保健分野でのキャリアを考える際ネックになることが、ロールモデルになるような人物が身近にいなかったことでキャリアパスを具体的にイメージできないということです。そこで当センターでは世界の様々な地域で、また、グローバルヘルスの多彩な方面で活躍する日本人の方々にキャリア形成のプロセスをお尋ねし、センターのホームページ上に公開させて頂いています。

第11回は、世界保健機関（WHO）トンガオフィス カントリーリエゾンオフィサーの瀬戸屋 雄太郎氏です。

第11回

インタビューー 清水真理子



世界保健機関（WHO）トンガオフィス カントリーリエゾンオフィサー

瀬戸屋 雄太郎 [せとや ゆうたろう]

1974年東京都生まれ。2004年東京大学大学院健康科学博士号取得。2003年～2011年国立精神・神経医療研究センター（NCNP）精神保健研究所 流動研究員・研究員・室長。2006年～2007年メルボルン大学国際メンタルヘルスセンター客員研究員。2011年～2013年WHOジュネーブ本部JPOジュニア・プロフェッショナル・オフィサー。2013年～2014年WHOジュネーブ本部テクニカルオフィサー。2014年～2017年WHO太平洋オフィス（フィジー）テクニカルオフィサー。2017年～2021年WHOトンガオフィステクニカルオフィサー。2021年～現在WHOトンガオフィスカントリーリエゾンオフィサー。

—大学で精神保健を専攻し博士号を取得、国立精神・神経医療研究センター（NCNP）に入職、研鑽を積む

東京大学の保健学科で精神保健を専攻、児童思春期のメンタルヘルスの研究で博士号を取得し、国立精神・神経医療研究センター（NCNP）精神保健研究所に入職しました。メンタルヘルスが重要な社会課題になり、厚労省がメンタルヘルスについての法律をつくり政策実施する際にはエビデンスを提供。同時に日本のメンタルヘルスの現状分析や地域中心の新しい支援方法等について国際学会で発表したり、日本とオーストラリアの共同研究で日本を代表して参加したり、国際的な活動にも注力し、ネットワークを広げていました。

—同僚がUNFPAに転じ、JPOの制度を知る

研究所の同僚がUNFPAに行くとき、JPO制度のことを知りました。それまでそういう制度があることを知りませんでした。私もチャレンジしてみようと思ったのが33歳。1年目は書類選考で落ち、合格したのは翌年34歳ぎりぎりの年齢でした。JPOは書類選考と面接が決まりますが、その年々の応募者数に

も左右され、当時WHOには毎年一人しか派遣されていませんでした。それでも日本国内選考なので世界全体からの公募に比べると合格の可能性が高いのは間違いないです。面接では「フランス語話せますか？」と聞かれましたが、正直言ってほとんどできませんでした。長期の海外経験は父親の仕事の関係で小学校1年から3年間シカゴにいたのと博士課程の時1年間休学してアジア・アフリカ・南米を回り、途上国の人びとの生活を肌で感じたくらいです。バックパッカーを経験して、私はたまたま日本に生まれただけでちょっとバイトを頑張れば世界一周できる恵まれた環境にいることに気づき、グローバルな視点で国際保健に貢献したいと考えようになったのは確かです。その熱意やこれまでの経験がかわれたのか、最終的に外務省の方からWHOの候補としてとっていただきました。

—WHOのジュネーブ本部で3年勤務

ジュネーブ本部では精神保健・薬物依存部に配属、中規模の部局で、優秀な人がたくさんいて新しい部長の下で皆一生懸命でした。部長がスーパーバイザーだったので、様々なプロジェクトに直接関わることができたのは幸運でした。WHOとしてはじめての自殺、認知症のレポート作成や、WHOATLASという加盟国の精神保健に関するデータをまとめる仕事などまんべんなく多くのプロジェクトに関わり、WHOの本部での仕事がわかり、さまざまな専門家と意見交換できました。前職時代から学会発表を通じてアジアのメンタルヘルス関係者とのネットワークは持っていましたが、さらに世界中の人とネットワークができ、グローバルメンタルヘルスの専門家はそう多くはないので、代表的な研究者や実践家のほぼ全員と顔なじみになれました。

（続きは https://hrc-gh.ncgm.go.jp/job-global/role_model/ でお読みいただけます。）

■ Heads-Up : 2022年度11月～12月カレンダー

以下のイベントを企画中です。

日程	イベント
11月3日（木・祝）	第7回国際臨床医学会学術集会オープン・フォーラム 「グローバルキャリアの作り方：北海道から世界へ」 グローバルヘルスに関わる北海道ゆかりの女性講師から将来のキャリアを考えるヒントを頂きます。後日センターホームページにて動画を掲載予定。
11月5日（土）～ 12月3日（土） までの毎週土曜日	大阪大学グローバルヘルス概論 英語によるコース。外部からの聴講枠があります。
12月10日（土）	Go UN Workshop 国際ポストに応募する際に必要なスキルを効率よく習得するためのワークショップ。
12月11日（日）	WHO 西太平洋事務局（WPRO）講師による個別進路相談会

■ 新スタッフの紹介

当センターの新スタッフをご紹介します。

事務担当 中村道代

【Message】 はじめまして。これまで民間企業の人事部で健康保険・雇用保険等の実務や役員秘書を経験してきました。また、2013年以降は学生（文系）の就活を支援していたこともあり、グローバルヘルスと関連分野に微力ながら参加できることを嬉しく思っています。どうぞよろしくお願いいたします。